

ANNUAL REPORT

事業報告書

2018



社会福祉法人 太樹会

皆様とともに

2018.4～2019.3



地域のクリーンデイ

2018年5月

社員の社会貢献などに対する意識向上を目的として、周辺地域の美化作業に参加しました。



介護の日in和里（にこり）

2018年11月

靴下市・フリーマーケットを開催。
ボランティアによる恒例のハンドマッサージや
琉球祭太鼓の演武も皆さま楽しみにされています。約250名が来場されました。



陵西小学校との交流

2018年10月

福祉教育の一環として交流会を実施。相互交流を通じて互いを理解し認め合い、地域共生社会を意識した活動を行います。



クラブ活動

地域で活動しておられるボランティアの皆さまや生活者のご家族にご指導をいただきながら、「茶道」「華道」「おりがみクラブ」を開催しています。



海外からの訪問

韓国の高齢者福祉に従事する市保健所職員・病院関係者の皆さまが訪問され、見学と情報交換を行いました。（計5回110名）



鍛山部屋

2019年2月

大相撲大阪場所の期間、大和高田市に宿舎を構えておられる鍛山部屋の皆さまと今年で3度目の交流会を実施しました。



RUN伴

2018年10月

テーマは「世界をオレンジ色に染める！」

認知症とともに生きる活動が日本から世界に広がっています。昨年は約18,000人、38都道府県のランナーが参加しました。



虹のキャラバン

2018年5月

全国の福祉施設でコンサートを開催される虹の会よりプロ歌手がお越しくださり、素晴らしい歌声と共に楽しい時間を過ごしました。



ボランティアイベント

地域で活動している各種団体や和里（にこり）地域交流スペースを利用している団体の皆さま、生活者のご家族がイベントを開催してくださいました。



奈良県いっせい地震行動訓練

2018年7月

ステークホルダーの防災意識を高め、地震災害のリスクや地震発生時の安全確保行動に関する理解を促進し、自助、共助の観点での防災対策に取り組みました。



社会福祉法人 太樹会は、和里（にこり）が10周年を迎えた2017年に「長期ビジョン2027」を検討しました。

法人理念を実現するため、目指すべき方向を示した2022年3月までの5年間で具体化する行動目標を「中期経営計画2022」として掲げ、これに沿って様々な活動を展開しています。2017年度に取り組んだ内容についてご報告いたします。

長期ビジョン2027

Creating Shared Value

超高齢＆人口減少社会において、地域社会のつづやき（ニーズ、生活課題）に真摯に取り組むことで、当法人の社会的価値は創造され、その結果として、経済的価値（自主・自律的な経営）が確立できます。

法人の使命と理念に基づく福祉実践を積み重ねていくことで、社会と共有できる価値の創造を目指します。

Personhood

パーソンフッドの向上

パーソンフッドとは、「支援する側、される側の区別なく、“私は必要とされている”と感じられる相互関係をつくること」であり、私たちが日頃から支援の目的にしようと試みている重要な概念です。この概念をステークホルダーとともに実感できるよう努めていきます。

Resource

経営資源の有効活用

若い法人ですが、培ってきたknow-howやknow-who、人財があります。地域のつづやきに真摯に向き合い、共生社会の実現を目指すためにも、経営資源を活かし、具体的に社会に還元ができる法人となるよう努めていきます。

Mission

法人の社会的使命

私たちは、地域社会におけるセーフティネットを構成する社会資源です。地域に暮らす人々から真に信頼される法人になるために、公正かつ透明性の高い、また、適正な経営と実効性のあるガバナンスの確立に努めます。

中期経営計画2022

2017年4月～2022年3月の5ヵ年計画

1 魅力ある職場づくり

パーソン・センタード・ケアを価値基盤とした組織風土の醸成や真のワーク・ライフ・バランスが実現できる職場づくりに努めます。また、ICTの活用などにより生産性の向上に取り組めます。

2 地域包括ケアシステムの推進

地域で継ぎ目なく支援が受けられるように法人内外の連携を強化します。また、第三者評価の受審などを通じて、地域支援と居住施設のあり方を追求します。

3 人財共育の推進

経営理念の明文化と周知徹底を行います。また、リーダー層の育成を重視するとともに、人事マネジメントシステム（採用ツール、キャリアパス、人事考課、報酬）を再構築します。

4 専門性と支援の質の追求

専門職としての価値を理解し、知識・技術の向上に努めます。また、科学的根拠に基づく研究と実践を行うためにも、産官学連携などに取り組めます。

5 地域コミュニティの活性化

法人が有する地域交流スペースを積極的に地域に開放します。また、法人間連携を強化し、地域のつづやきに応じた街づくりに貢献します。

6 生活困窮者への支援

生活困窮者が社会的自立を果たせるよう、様々な中間的就労の場を提供し、一般就労への移行を支援します。また、公益事業を展開し、経営資源の有効活用に努めます。

7 健全な財務規律の確立

財務指標に基づく経営分析等を行うとともに、適切な収益性の確保に向け、職務権限・役割の明確化とコスト意識の醸成に努めます。

8 人権・福祉教育の推進

認知症や高齢者の理解を促進するため、学校などの他機関と連携した出前講座や啓発広報活動を実施し、人権尊重の意識の醸成に努めます。

9 理解と信頼を得るための情報発信

事業の透明性の向上のため、広報機能を強化し、第三者評価結果や苦情状況、財務諸表等を積極的に発信します。また、SNS等の普及を踏まえ、適切な情報管理に努めます。

10 災害時の対応

災害などに備えBCP（事業継続計画）の策定・周知をし、BCPに基づく訓練を行うとともに、災害時要配慮者の受け入れや復旧復興活動の支援を行います。

理事長 植島 宏信 インタビュー

将来像を描きながら，共に歩む



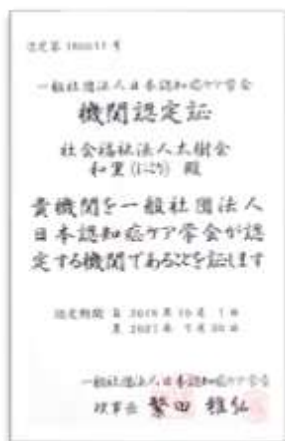
一般社団法人日本認知症ケア学会 機関認定

4 専門性と支援の質の追求

質の高い認知症ケアを社会に普及させることを目的に、2018年に日本認知症ケア学会によって創設された機関認定制度において、認定をいただくことができました。（2018年11月1日時点で全国に33施設）

認定には、認知症ケア上級専門士が2名以上在籍していること、学会の代議員2名以上から推薦を受けること、認知症に関する地域・社会貢献活動を継続的に行なっていること、といった7項目の条件をすべてクリアする必要があるため、この認定は、社員らが日々研鑽を重ねた結果であると嬉しく感じています。

認知症とともに生きる人は、2025年には65歳以上の約5人に1人となるそうです。そのうちの多くの人が、施設や病院で暮らすのではなく、まちの中で暮らしています。医療や介護も暮らしを支える重要な要素ですが、それと同時に、住民組織やビジネスセクターも含めた地域のあり方が問われるようになっていきます。今後も、多種多様な価値観の中で、専門性の向上を目指してまいります。



社会福祉事業と公益事業の両立へ

7 健全な財務規律の確立

地域包括ケアシステムが推進され、様々な「住まい」が整備されています。個々の意向や介護環境に合わせて選択できるサービスが増加し、黙っていても特別養護老人ホームに人が集まる時代は終わりました。

2019年度は谷野会計事務所と契約し、各拠点の経営状況を適切に把握し、効率的な事業運営を行います。また、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、法人の本旨から導かれる本来の役割を明確化し、地域における公益的な取り組みをより進展させます。

社会福祉事業と公益事業の両立へ

10 災害時の対応

2016年の熊本地震では、関係する福祉施設などが被災しました。僅かながらの水や日用品等の物資を手配するなど、迅速な支援活動を行いました。

今後30年以内に70～80%の確率で発生するといわれている南海トラフ地震。私たちは不測の事態に備え、減災マニュアルを策定・周知し、定期的な訓練を実施しています。

今後はより一層の減災のためにも、BCP（事業継続計画）を見直し、地域住民や他機関との連携、協働を図ります。



法人理念

おおき

私たちは太樹な心で社会に貢献します

私たちは、支援が必要になった人のみならず、その人を取り巻く家族や地域住民も含めて、かけがえのない人であることを誰もが互いに実感でき、未来に希望が広がるような社会の変革を目指します。

種々の実践では、パーソン・センタード・ケアの価値基盤で対話し、可能性を引き出しあえる法人であり続け、大地に深く根付いた太い樹のごとく、共に成長したいと考えます。

パーソン・センタード・ケアとは、

その人を取り巻く人々や社会とのかかわりを持ち、人として受け入れられ、尊重されていると本人が実感できるように、共に行っていくケア

日本人DCMTレーナー会，2009.6

運営方針

1. 素晴らしい体験は、素晴らしい組織から

理念や方針を実行に移すためには、組織の活性化が必須です。組織が活性化されない限り、パーソン・センタード・ケアの哲学は、絵に描いた餅となります。

いくら志が素晴らしくても、何も変わらなければその志も無価値に終わります。私たちが幸せになるような組織とともに創りながら、その組織を通じて、共生社会に貢献していきます。

2. 住み慣れた地域で、互いに必要とされる関係づくり

法人を取り巻くコミュニティ（地域社会）には、どのようなつづやきがあるでしょうか。それらを知るためにも、より一層のかかわりや出会い機会を早めることが求められます。

嬉しいことやつらいことなど、様々な心の内をお話いただけるような関係を築き、それぞれの思いが実現できるように心がけます。我がこととして関係の質を高め、互いに支えあい、認め合えるような関係を目指します。

3. 一人ひとりの尊厳に配慮した暮らしづくり

環境が変化した場合、誰も少なからず影響を受けます。特に影響を受けやすい高齢者の特性に配慮します。

繊細かつ真摯なかかわりを継続していくためにも、本人の内面をわかろうとする気持ちと観察の技能などを用いて、現在、未来に何を求められているのか、何をしたいと思っておられるのか、などを推察します。

生活者が一人の人として、その能力を発揮し、生きがいや居場所を実感できるよう、地域生活の支援や生活環境の充実、権利擁護を具体的に推進します。

4. 専門職としての価値を理解し、知識、技術の向上

自分と異なる価値観を否定すると、対人援助が成り立ちません。

「人」が「人」にかかわる対人援助のプロフェッショナルとして、自己覚知を実践します。

自己覚知を試みると、自分を恥じ、苦しんだり、孤独感にさいなまれたりすることもありますが、自分の中で相反する価値観が衝突するジレンマから逃げず、自分自身の理解や役割をともに深めていきます。

また、常に多職種間で、互いの役割やパーソン・センタード・ケアの哲学を共有するとともに、社会から期待される知識と技術を身につけます。



約束事

1. 日常の五心を伝え合います
2. 「介護」を「支援」と置き換えます
3. パートナー同士の私語をなくし、生活者を中心とした会話を心掛けます
4. 「～ですか？」の言葉かけで自己決定を促します
5. 緊急時以外、慌しい行動は慎み、落ち着いた支援を行います
6. 配慮が不足したかわりを行いません
7. 気づき、考え、行動し、振り返ります
8. 「もし自分だったら…」と、常に念頭に置き、支援します
9. 多職種とのコミュニケーションを図り、スムーズな連携を目指します
10. 暮らしの場を損ねる恐れのある専門用語や「業務」的な言動を改めます
11. 人と動物が良きパートナーになれる共生社会を目指します

- ✓ 「はい」という素直な心
- ✓ 「すみません」という反省の心
- ✓ 「私がします」という奉仕の心
- ✓ 「おかげさま」という謙虚な心
- ✓ 「ありがとう」という感謝の心

“信頼関係”という便利な言葉は多用されていますが、無条件に信じられる関係を簡単に築くことはできません。
まずは、信用が得られるような人間関係を目指すことが必要ではないでしょうか。そのために、日常の五心などを言動にすることが求められます。五心を言葉にするのは簡単ですが、以下の点にも留意しましょう。

知っている < 解っている < できる < している < し続けている < 届いている

理念ハンドブック



社会福祉法人 太樹会

Copyright © 2017 Taisui Social Welfare Corporation. All Rights Reserved.

専門用語は、パートナー同士の連絡を簡潔に行うための単語ではないでしょうか？単語（言葉）の意味を理解せずに活用すると、誤解を招き、相互理解が困難になりかねません。そのような言葉を使うこと自体がパートナー本意とも考えられるため、私たちは専門用語の意味を考え、生活者本位である言葉に置き換えます。

例えば、「食介」「巡回」「帰宅願望」「現場」など、何気なく使っている言葉そのものは間違いではありませんが、パートナー本位の言葉ではないでしょうか。私たちが、認知症とともに生きる人たちのパーソンフッドを維持しようと取り組むプロセスとして、今一度、パーソン・センタード・ケアを考えるために、これらの表現を改めましょう。



法人概要

事業内容	第1種・第2種社会福祉事業（高齢）	職員数	176名
	公益事業	経常収入	908,307,392円
設立	2006年（平成18年）2月	事業所	奈良県大和高田市：1ヶ所
代表者	理事長 植島 宏信		奈良県香芝市：2ヶ所

2019年3月31日現在

事業区分

社会福祉事業区分	和里（にこり） 拠点区分	法人本部 特別養護老人ホーム ショートステイ デイサービスセンター 居宅介護支援 無料または、自費に近い対価で食事などを提供する飲食店事業（コミュニティカフェ事業）
	和里（にこり）香芝 拠点区分	地域密着型特別養護老人ホーム ショートステイ デイサービスセンター 居宅介護支援
	和里（にこり）香芝Ⅱ 拠点区分	地域密着型特別養護老人ホーム 無料または、自費に近い対価で食事などを提供する飲食店事業（コミュニティカフェ事業）
公益事業区分	和里（にこり） 拠点区分	奈良県介護員養成研修事業（介護職員初任者研修／介護福祉士実務者研修）

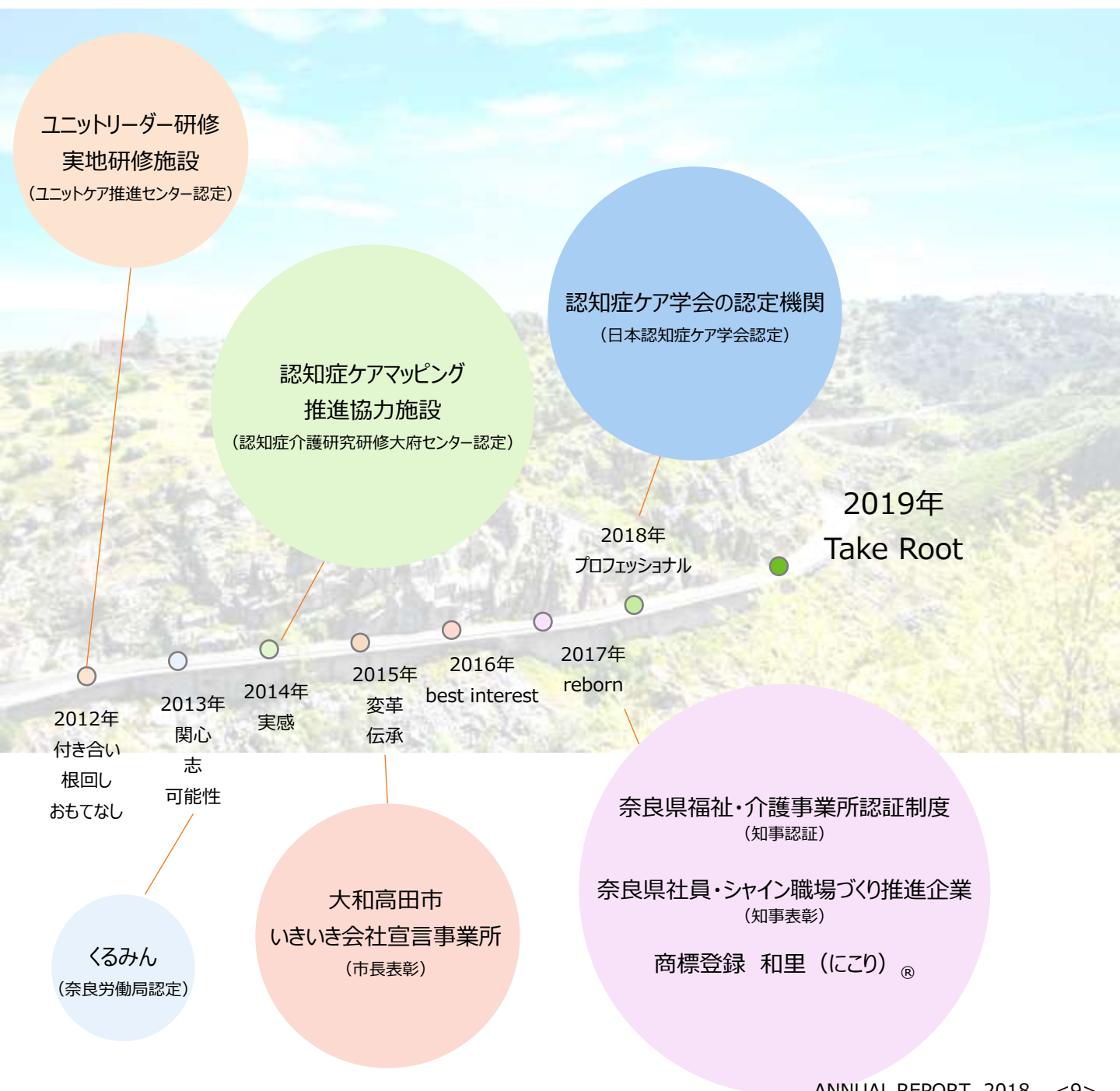


法人全体の取り組み KEYWORDS

志と使命感をもって職務に取り組む社員を育て、有為の人財を社会に送り出すことが、21世紀の法人にとっての究極の社会貢献

日経CSRプロジェクト編：「CSR「働きがい」を束ねる経営」、日本経済新聞出版社、26-28（2006）、一部改

パーソン・センタード・ケアの実現に向け、各自の姿を通して、職務の奥深さや働きがいを発信しよう





6分野20項目の認証を取得！

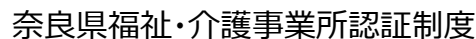
- 1 魅力ある職場づくり
- 3 人財共育の推進



未来を描くためのキャリアパス

研修は、「資質向上のための計画書」などで体系化し、階層別としています。「理念ハンドブック」や「支援の知識」などを更新し、専門性の向上に努めています。

また、本人の意向に応じた機会を確保するため、コース設定などにも配慮し、法人内外の研修の機会を確保しています。



福祉・介護人材の確保を図ることを目的として、奈良県では2016年12月から「奈良県福祉・介護事業所認証制度」の運用が開始されています。

職員の人材育成や処遇向上等につながる6分野20項目の認証評価項目を県が審査し、基準をクリアした福祉・介護事業所を知事認証し、公表する制度です。求職者への情報提供以外にも、職員にとっては、「自らの職場が認証事業所」であることの誇りを持ち、モチベーションの向上につながる事が期待されています。

[illegible]



法人全体の取り組み

オープンカレッジで地域貢献

- 4 専門性と支援の質の追求
- 5 地域コミュニティの活性化
- 8 人権・福祉教育の推進



DCM関西地区ブロック会
事務局

日本パーソン・センタード・ケア・
DCMネットワークと連携し、パーソ
ンセンタード・ケアの普及とその向
上に努めています。



年間市民講座

地域交流の場として、「フラワーア
レンジメント」「終活講座」「ヤクル
ト健康講座」等の講座を開催しま
した。



VR認知症プロジェクト研修会

最新テクノロジーを使った「認知症
を体験する」研修を開催しました。
福祉関係者をはじめ、一般、教
員、学生など多くの方に参加いた
だき、認知症についての理解を深
める機会となりました。



奈良県認知症ケア専門士会
事務局

地域の方々と力を合わせて、認
知症ケアに取り組んでいる認知症
ケア専門士のサポートに努めていま
す。

地域交流スペースの無料開放

- 5 地域コミュニティの活性化

エムヨガ	43回	860人	ラ・ヴィ・コール	8回	160人
楽しく健康ヨガ	29回	435人	みつば家よさこい	7回	140人
バンビーナインアリス	27回	351人	着付け教室	17回	85人
當麻混声合唱団	10回	300人	ABCイングリッシュスクール	2回	80人
生涯学習フラの会	33回	264人	いちや	1回	20人
蹴真館	22回	220人	ママのための今ここからを考える会	1回	8人
ピハマウロアメケアロハ	27回	216人	フラサークル プアオレナ	1回	2人
コールコパン	21回	210人	通夜・告別式	3回	



法人全体の取り組み

メディア掲載&外部主催の講演会・発表

- 4 専門性と支援の質の追求
- 8 人権・福祉教育の推進
- 9 理解と信頼を得るための情報発信



Media coverage (The most recent 3years)

2017年10月	奈良新聞	「安心して働ける」 奈良県福祉・介護事業所認証制度	社会福祉法人太樹会
2017年11月	池田書店	『認知症の人の気持ちがよくわかる聞き方・話し方』 columnなど	吉川聡史（施設長） 安田知美（相談職）
2018年 3月	奈良新聞	「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」 知事表彰	社会福祉法人太樹会
	マイナビ	『cura』 素顔★COLLECTION 人のために働く人たちの日常に迫る！	嶋田有里（相談職）
2018年 5月	奈良人権部落解放研究所	『ならヒューライツニュース』 認知症をもつ人とともに歩む社会へ ～パーソン・センタードな関わり～	吉川聡史（施設長）
	日総研出版	『介護人財』 介護スタッフの【働き方＆休み方】改革	吉川聡史（施設長）
2018年12月	奈良県長寿・福祉人材確保対策課	『care Jr.（ケアジュニア）』	中西由紀（支援職）
	中和新聞	「認知症をもつ人とともに歩む社会へ」	吉川聡史（施設長）





SEMINAR&REPORT（The most recent 1year）

日付	テーマ	発表者	主催者
2018年 5月	ユニットリーダー研修講師	伊田 尚矢（グループリーダー）	日本ユニットケア推進センター
	認知症をもつ人とともに歩む社会へ パーソン・センタードな関わり	吉川 聡史（施設長）	大和郡山市
2018年 6月	生活支援技術Ⅲ	安田 知美（相談職）	奈良佐保短期大学
2018年 7月	시설 개요（施設概要）	吉川 聡史（施設長）	保健福祉人力開発院（韓国）
	ユニットリーダー研修コーディネーター	岩岡 克己（課長）	日本ユニットケア推進センター
	終末期のケア	安田 知美（相談職）	奈良佐保短期大学
2018年 9月	認知症をもつ人とともに歩む社会へ パーソン・センタードな関わり	吉川 聡史（施設長）	大和高田市人権教育推進協議会
	시설 개요（施設概要）	吉川 聡史（施設長）	鄭邑市保健所（韓国）
2018年10月	老年看護学実践論Ⅲ パーソン・センタードな関わり	吉川 聡史（施設長）	天理医療大学医療学部
	시설 개요（施設概要）	吉川 聡史（施設長）	金堤市保健所（韓国）
	用語の使用状況と認識レベルの調査 研修受講者の痴呆，問題行動，ニチの使用実態から	吉川 聡史（施設長）	全国老人福祉施設協議会
	実践発表支援プログラムの現状把握 アンケート調査における考察	安田 知美（相談職）	全国老人福祉施設協議会
	職員の有能感を高める要因の調査 組織の活性化要因の分析結果から	樋野 幸子（総務職）	全国老人福祉施設協議会
2018年11月	認知症をもつ人とともに歩む社会へ パーソン・センタードな関わり	吉川 聡史（施設長）	大和高田市人権教育推進協議会
	私の居場所はどこ？～心穏やかに過ごせる環境づくり～	崎山 良子（ユニットリーダー）	奈良県老人福祉施設協議会事務局
	看護師のユニット配属によるチームケア～生活者のニーズにこたえ、ともに喜びともに楽しむ～	内田 智子（グループリーダー）	奈良県老人福祉施設協議会事務局
	ユニットリーダー研修講師	岩岡 克己（課長）	日本ユニットケア推進センター
	ユニットリーダー研修コーディネーター	伊田 尚矢（グループリーダー）	日本ユニットケア推進センター
	시설 개요（施設概要）	吉川 聡史（施設長）	大韓老人療養病院協会（韓国）
	自施設実習成果発表	太田 祐加（ユニットリーダー）	奈良県福祉医療部長寿・福祉人材確保対策課
	自施設実習成果発表	石伊 正和（ユニットリーダー）	奈良県福祉医療部長寿・福祉人材確保対策課
2018年12月	ユニットケアの運営方法（4）システム（情報共有）	吉川 聡史（施設長）	近畿ブロックユニットケア連絡会
	認知症ケアに関する困りごとを無くしていくために～支援員が自主的に開催する勉強会からの考察～	中尾 陽子（グループリーダー）	奈良県福祉医療部長寿・福祉人材確保対策課
	職員自ら考える心理的ニーズに視点を向けた関わり	伊田 尚矢（グループリーダー）	奈良県福祉医療部長寿・福祉人材確保対策課
	用語の使用状況と認識レベルの調査	安田 知美（相談職）	奈良佐保短期大学
2019年2月	回想法におけるVR技術活用に向けた課題を明らかにする取り組み	里村 俊祐（ユニットリーダー）	特別養護老人ホーム 高秀苑
	昼夜が逆転したご利用者様	梶本 卓児（介護支援専門員）	株式会社 日本経営
2019年3月	自施設実習成果発表	植島 康平（施設長）	神戸リハビリテーション福祉専門学校
	自施設実習成果発表	内田 智子（グループリーダー）	神戸リハビリテーション福祉専門学校
	自施設実習成果発表	梶本 卓児（介護支援専門員）	神戸リハビリテーション福祉専門学校
	酢ドリンクで健康効果を調査する 血圧と血糖値の上昇緩和を調査	毛利 俊夫（支援職）	気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム
	アロママッサージによる嚥下機能維持・向上に向けた取り組み	小山 敦功（支援職）	気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム
	アセスメントシートを活用し、「総合的な援助の方針」の個別化を図る	増田 千晶（介護支援専門員）	気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム
	ユニットリーダーへの支援体制づくりに向けた現状調査	岩岡 克己（課長）	気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム
	福祉の道に進んだ理由，和里（にこり）を選んだきっかけ	古川 紗弥加（支援職）	奈良県社会福祉協議会福祉人材センター



法人全体の取り組み

社会福祉法人 太樹会 第8回実践発表会

4 専門性と支援の質の追求

和里（にこり）

タイトル	部署
アクティビティケアが睡眠に及ぼす影響	二上ユニット
本人にとってよりよい暮らしを知るために現状を知る	三輪ユニット
家庭菜園を通しての効果と考察によって得られたこと	高円ユニット
アISMマッサージによる嚥下機能維持・向上に向けた取り組み	飛鳥ユニット
回想法におけるVR技術活用に向けた課題を明らかにする取り組み	青龍ユニット
A様の入浴に向けての移乗支援におけるガイドラインの作成	朱雀ユニット
A様の人生歴と現在の行動を照らし合わせ再アセスメントした内容	白虎ユニット
パーソン・センタード・ケア実践のためにDCMできっかけを作る取り組み	玄武ユニット
日本一の旅館からおもてなしの心得を学ぶ	龍田ユニット
ヘルストロンの効能・効果	葛城ユニット
アセスメントシートを活用し「総合的な援助の方針」の個別化を図る	介護支援専門員
自宅での暮らしの継続を支えるためにデイサービスでできること	デイサービスセンター
他施設のNSTの取り組みから、今後の活動へ繋げる	栄養職
看取り後カンファレンスにおける考察	医務室
職員の有能感を高める要因の調査	総務職

和里（にこり） 香芝

タイトル	部署
支援員の業務に対する意識へのアプローチ ～食品ロス削減の取り組みを通して～	大和ユニット
痩せていくA様の食事に関する取り組み	天羽ユニット
スライディングシート	飛龍ユニット
酢ドリンクで健康効果を調査する ～血圧と血糖値の上昇緩和を調査～	万葉ユニット
デイサービスでのカンファレンスの考察	デイサービスセンター
在宅利用者がサービス事業所を選択するうえで重視することを調査 ～当法人への期待～	ケアプランセンター

和里（にこり） 香芝Ⅱ

タイトル	部署
パーソン・センタード・ケアに基づいて3ステップで実践～生活者の想いを知りたい	畝傍ユニット
認知症をもつ生活者の思いを知るために	香具ユニット
関わり方による感情の変化	耳成ユニット

新入社員発表

タイトル	報告者
和里（にこり） ⑥に入職しての一年	西川智里，古川紗弥加，中西由紀，吉田淳人



自律社員の育成とグループでフォローする組織の構築

福祉人材の採用と育成はさらに重要性を増していきます。職種に応じて働き方の改革を進め、適切に仕事や職場の魅力を提供できるような仕組みが必要です。

組織をゼネラルな視点でとらえ、実践につなげていける人材を育成のため小規模でのグループリーダーの配置。社員が孤立しない仕組みや有機的に連携しチームでフォローできる組織の構築のためにICTの導入を実施しています。



ユニットではつながりを大切にしています

暮らしでは、関係をつなぐことができる環境づくりを支援いたします。生活者一人ひとりの培ってこられた習慣や関係を、たとえ住む環境が変わったとしても、実現できるように配慮します。

例えば、何十年もあっていない友人との涙の再会の実現。普段の暮らしでは、社員は日常のケアをするだけでなく、生活者の人生に焦点をあて、生活者が自分の居場所を実感する支援を目指しています。



要介護2

新規	1人	要介護3	要介護4	要介護5
		11人	14人	9人

実績：90.8%

前年比：▲5.0%

空床：延1,709床

入院：延1,393床

誤嚥性肺炎、肺炎、脱水など

次年度に向けて

DCM認定施設及びユニットリーダー研修施設としての責務を果たしながら、地域包括ケアシステムにおける一つの「住まい」としての魅力をステークホルダーに発信します。

具体的には、各種指標管理（薬剤、脱水など）と免疫力の改善や支援方針の言語化と徹底を図ります。

また、職場環境の維持向上のために、空床日数の削減に努めるとともに、キャリアパスや福利厚生制度の展開及び見直しを図り、将来の上位認証制度に備えます。

事業内容	介護老人福祉施設 定員90名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	生活支援課 課長 岩岡 克己		



人と動物が幸せに共生できる社会を目指すために

人と動物が幸せに共生できる社会を目指すために、どのようなことができるのかを考えました。動物と共に暮らすために取り組みやすい、ペット同伴出勤を限定的に始めました。動物の持つ癒しの力を借り、暮らしの質の向上に繋がっています。



情報発信



奈良県庁の長寿・福祉人材確保対策課より取材を受け、中学生のための福祉と介護の情報誌「ケアジュニア」に掲載されました。また、福祉系高校で福祉の魅力について話すことができました。

新規	要介護3 3人	要介護4 6人	実績：85.0%	前年比：▲10.2%
			空床：延1,249床	
			入院：延 339床	膀胱炎、脱水、肺炎など

次年度に向けて

外部評価の早期実施に向けて、法人本部、和里（にこり）と連携・協働を図ります。
運営推進会議や地域ケア会議で課題分析を行い、Evidence-Based Careの高度化に努めます。
また、人と動物が幸せに共生できる社会を目指して、ステークホルダーへの説明を継続します。
経営基盤強化のため、見学会の定期開催、地域イベントへの参加、中学校区単位の情報発信に努めます。

事業内容	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員29名	所在地	奈良県香芝市鎌田594
担当者	施設長 植島 康平		



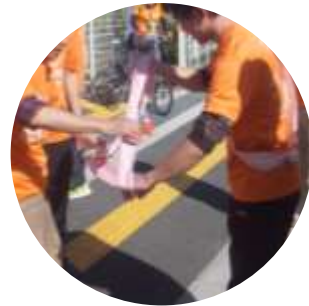
食事づくりで、楽しみのある暮らしへ

週2回ほど、ユニットで食事づくりを行うことで、生活者と
いつも以上に会話が弾みます。
会話からどのような意向を持たれているのかをくみ取り、
想いに応えられるように努めています。



地域への発信

定期的に見学会を開催することで事業所の認知度向上を目指したり、地域イベントに参加し、地域交流に努めています。



新規

要介護3
2人

要介護4
7人

実績：92.2%

前年比：▲4.1%

空床：延622床

入院：延190床

心不全、肺炎、骨折など

次年度に向けて

外部評価の早期実施に向けて、法人本部、和里（にこり）と連携・協働を図ります。
運営推進会議や地域ケア会議で課題分析を行い、Evidence-Based Careの高度化に努めます。
また、人と動物が幸せに共生できる社会を目指して、ステークホルダーへの説明を継続します。
経営基盤強化のため、見学会の定期開催、地域イベントへの参加、中学校区単位の情報発信に努めます。

事業内容	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員29名	所在地	奈良県香芝市鎌田602
担当者	施設長 植島 康平		



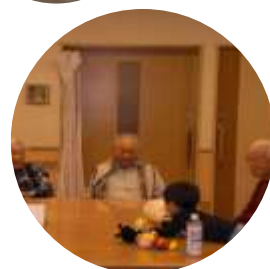
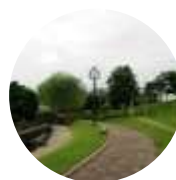
くつろぐことができる暮らし ～おもてなし～



ショートステイ（短い滞在）ですが、私たちはご利用いただく方々に、ときには自宅のように、ときには旅館のように、くつろぐことができる暮らし、そして、お帰りの際に、「来てよかった」と思って頂けるようなおもてなしをしています。

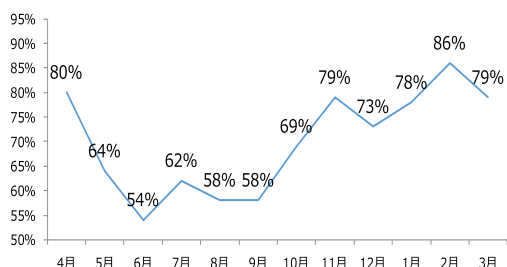
デイサービスとショートステイの情報を共有することによって、食事の違いが明確になり、「ショートステイの食事がおいしくない」「今後ショートステイを利用しない」の言葉が聴かれました。

そこで、食材費を設け、食事やおやつにひと手間をかけること、工夫することで食の充実を図ることができ、ご利用の継続にもつながりました。



ご利用中、自宅に帰りたい気持ちが強く、ご自分で帰ろうとされるが道に迷ってしまう生活者がおられます。心配するご家族の気持ちに配慮し、GPS機能付きのシューズを利用し、緊急時の所在の確認ができるように、多職種、地域と連携することで本人、家族が安心して暮らしていただけるようになりました。

職員（育児中）の子どもが遊びに来ると、顔なじみの関係ができており、ハイタッチ、や握手などのスキンシップを図ることで、生活者が笑顔になることもありました。



実績：69.7%

前年比：▲19.4%

次年度に向けて

パーソンフッドを高め、自宅での関係性が継続できるような関わりを目指します。また、自立度が低下しないように、在宅復帰を念頭に置いて、重度化防止の関わりを実践します。

具体的には、生活支援計画書を生きがいのある目標指向型にすることや、リファール率の分析などを実施し、情報発信を工夫します。

また、専門職として、多職種連携を図るために認知症ケア専門士の資格保有60%を目指します。

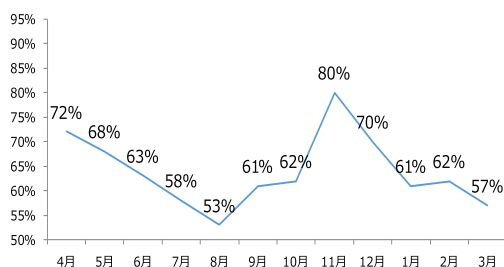
くつろげる環境づくりとして、企業と協同し、住環境のリフォームを行います。

事業内容	短期入所生活介護 定員20名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	相談職 堀江 麻里・嶋田 友里		



アクティビティを高める

本人の自立度の維持，自宅に帰られる際に活動が継続しやすいようにアクティビティを高めることに努めました。
普段の何気ない会話から，本人のニーズを聞き取り，食べたい食事づくりの提案，行きたい場所への外出支援
など余暇の充実を行いました。



実績：63.4%

前年比：▲23.1%

次年度に向けて

ショートステイ和里（にこり）と協調して支援にあたります。

パーソンフードを高め，自宅での関係性が継続できるような関わりを目指します。

また，自立度が低下しないように，在宅復帰を念頭に置いて，重度化防止の関わりを実践します。

具体的には，生活支援計画書を生きがいのある目標指向型にすることや，ホスピタリティの向上などに努めます。

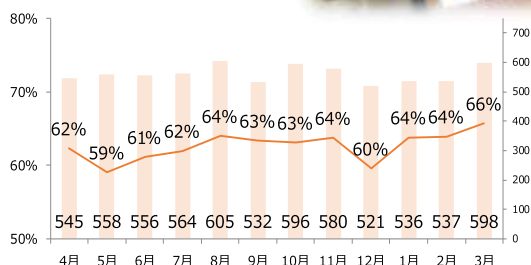
事業内容	短期入所生活介護 定員11名	所在地	奈良県香芝市鎌田594
担当者	施設長 植島 康平		



生活動作に基づいた機能訓練・アクティビティの実践

デイサービスセンター和里（にっこり）では、個別の生活機能にスポットを当て、各種機能訓練評価（関節可動域・筋力・日常生活動作など）に加えて、興味関心チェックや、実際の送迎車を使用した昇降の評価、家屋状況の評価をおこない現状把握につとめました。

家族・ケアマネジャーの意向調査では、新規登録者の8割強が入浴とレスパイト目的でした。一方、生活者は食事の楽しみ、機能訓練やアクティビティにおける意識が高かったことから、新たな機能訓練機器（エアロバイク・プーリー）を導入し、具体的な目標を可視化することで、生活者が主体的に活動できるようになりました。また、卓上ゲームのデモ機導入、園芸、食事作り、外食・散策・買い物などの個別外出、介護の日イベントの出店、地域の夏祭り参加、脳トレ、塗り絵コンクールの出品など、生活者個々の意向に基づき実施しました。



実績：62.6%

前年比：+2.6%

次年度に向けて

生活者が自立（自律）した生活を営めるために、個別機能訓練加算Ⅱを算定できるよう準備を進めます。
 パーソン・センタード・ケアを価値基盤とし、支援の質の向上を目指します。
 安心、安全の送迎体制を構築します。
 地域や関係機関との連携、協働を図り、積極的な広報活動をおこないます。
 自主自律型のアクティビティの充実を図ります。
 収益と人件費率を可視化し、経営状況改善のため社員全員の意識強化に努めます。
 利用時の居場所づくりだけでなく、自宅での暮らしや地域社会への参加を応援するため、生活者・社員すべての“人”の伴走者として、ともに歩み続けていきたいと考えています。

事業内容	通所介護 定員35名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	施設長 吉川 聡史		

楽しみから意欲向上に

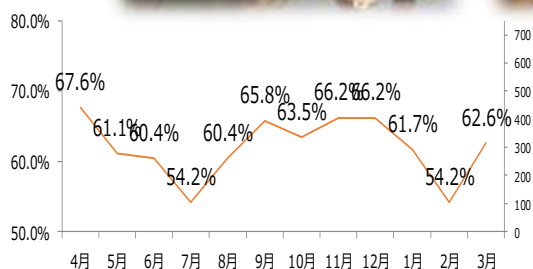
敷地内の畑で収穫した野菜を使用し、「育てる、収穫する、食べる」のサイクルから食事づくりとおした機能訓練を行ってきました。



取り組みやすく意欲がわくようなプログラムを

食事づくりとおした機能訓練以外にも誤嚥予防の顔体操等を行っています。

例えば、事業所の敷地内の散歩をしようと声を掛けるのではなく、畑で栽培している野菜を見に行こうと生活者が取り組みやすく、意欲がわくようなプログラムを考えています。



実績：62.0%

前年比：+7.6%

次年度に向けて

地域密着型サービスの特性を探ります。

管理的な日課をつくらず、個別的な関わりを実践します。

ご本人の住み慣れた家（地域）での暮らしの継続や、生きがいづくりを支援します。

また、おもてなしを実践し、顧客満足度の向上を目指します。

事業内容	地域密着型通所介護 定員10名	所在地	奈良県香芝市鎌田594
担当者	施設長 植島 康平		



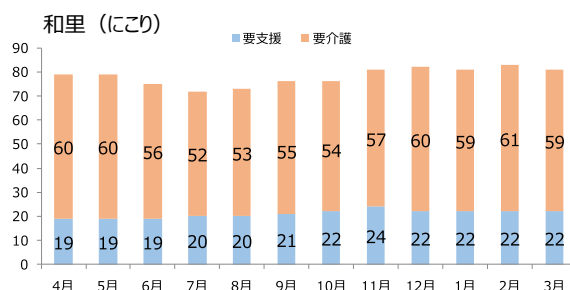
地域包括ケアシステムでの協働

地域で暮らす要介護高齢者や家族に対して、定期的な訪問を行い、それぞれの意向を伺いました。必要時は代行申請や相談支援を行うなど、それぞれが地域での暮らしを継続できるように、介護保険サービスや介護保険外の地域サービスなどに繋げていき、いつまでも住み慣れた地域で暮らすことができるようなマネジメントに努めました。

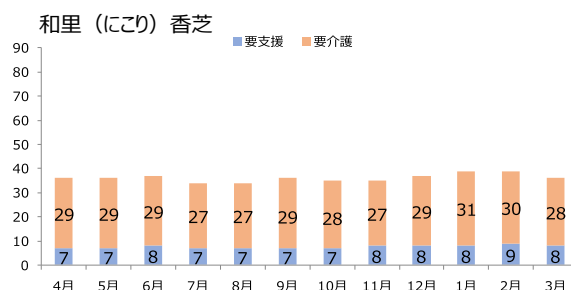


「自宅へ戻りたい」

A様：Y市在住、要介護1、女性、長男夫婦と同居。長男夫婦は日中就労しているため、日中は独居。
2018年1月に自宅で転倒、手術・入院。その後、リハビリ目的で転院、2018年6月に退院して、自宅に戻った。退院後は、「自宅へ戻りたい」という本人の意向を尊重して、ケアプランを作成した。
A様は通所リハビリ週3回、段差昇降機と歩行器のレンタル、必要時はショートステイを利用しながら、在宅生活を送っておられ、今も殆んど休まず通所リハビリに通っています。



実績：要介護57.2件 前年比：▲3.7件
要支援21.0件 前年比：+6.5件



実績：要介護28.6件 前年比：± 0件
要支援 7.6件 前年比：+2.6件

次年度に向けて

住み慣れた地域で、本人の意向を大切にしたい、よりよい暮らしが継続できるように、フォーマルとインフォーマルな支援を効果的に組み込んだ居宅サービス計画を作成します。

総合的かつ効率的に支援されるよう各機関と連携・協働します。

具体的には、地域ケア会議やケアマネ連絡会での情報収集、事例検討会の開催などでケアプラン点検をし、地域協働のエピソードを言語化します。

事業内容	居宅介護支援	所在地	大和高田市野口325番3／香芝市鎌田594
担当者	管理者 吉川 聡史 / 南 泉		



介護職員初任者研修

奈良県介護人材確保対策総合支援補助金と森田記念福祉財団の支援を受けて、支援についての基本を学習しました。

10期生： 4名（一般1名／社員3名）

11期生： 3名（一般3名）

12期生： 3名（一般2名／社員1名）



介護福祉士実務者研修

2016年度の介護福祉士国家試験から実務者研修の修了が義務付けられました。

介護福祉士国家試験の受験を控えている方など受講する理由は様々ですが、支援のあり方を意見交換行うことや、改めて支援について考えることは貴重な機会となりました。

1期生： 9名（一般1名／社員8名）

2期生： 8名（一般4名／社員4名）



次年度に向けて

培ってきた知識・技術・ネットワークを活用し、地域へ還元することで、地域の福祉力・介護力を醸成し、地域福祉等の増進に寄与したいと考えます。

地域における雇用創出と介護福祉分野における経営革新の支援や創業支援を実施するための介護員の養成を図ります。

具体的には、初任者研修を休止し、実務者研修（年1回定員15名）の開催と授業設計の充実に努めます。

事業内容	初任者・実務者 定員各10名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	施設長 吉川 聡史		



無料または、自費に近い対価で食事などを提供する飲食店事業（コミュニティカフェ事業）

出会いのポイントを早め，地域で継続性のある暮らしを支える『和gen』



カフェ
毎週土曜日 計65回



居酒屋
第3金曜日 計12回

生活者	409名（+65）
一般（家族含む）	227名（▲ 7）
職員	92名（▲60）
計	728名（▲ 2）

地域の方が誰でも気軽に立ち寄ることができる『和gen』 香芝Ⅱ



カフェ
第3木曜日
計11回 284名



居酒屋
不定期
計2回 42名

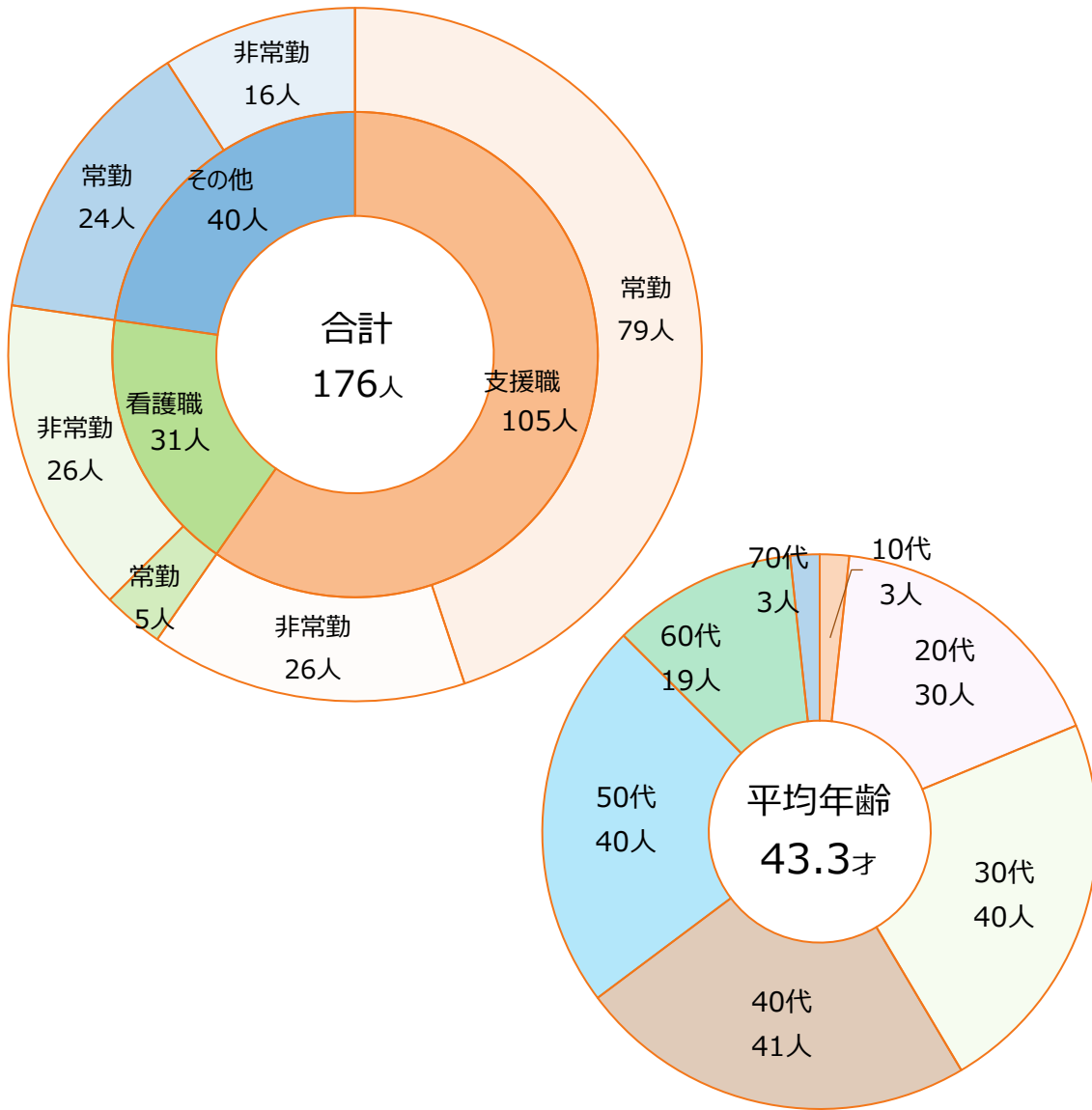
次年度に向けて

地域の中で認知症とともに生きる人やその家族などが気軽に立ち寄ることができ、つぶやき（生活課題）の対話を通じて、孤独感や介護負担の軽減ができるような人と場所を提供します。

認知症の有無などに関わらず、誰もが互いに認め合えるような街づくりを目指します。

具体的には、開催日の拡大（他機関、地域住民への貸し出し）、プログラムの充実（大学との連携、終活・就活セミナーなど）、たずさわる人の養成、まほろば幸いネット等と連携に努めます。

事業内容	コミュニティカフェ	所在地	大和高田市野口325番3／香芝市鎌田602
担当者	管理栄養士 竹内 彩予祐 / 管理栄養士 川上		



主な資格と研修修了者数 2019年3月31日時点

				(人)	
介護福祉士	78	介護支援専門員	13	認知症介護指導者	5
実務者研修	11	精神保健福祉士	1	認知症介護実践リーダー研修	9
ホームヘルパー2級	12	歯科衛生士	1	認知症介護実践者研修	10
初任者研修	5	ユニットケア管理者研修	2	認知症介護基礎研修	8
社会福祉士	5	ユニットケア指導者	2	DCM上級ユーザー	2
社会福祉主事	6	ユニットリーダー研修	11	DCM基礎ユーザー	8
看護師	23	アセッサー	25	上級認知症ケア専門士	4
准看護師	8	福祉住環境コーディネーター2級	5	認知症ケア専門士	17
管理栄養士	4	福祉住環境コーディネーター3級	1	認知症ケア准専門士	1
栄養士	1	衛生管理者	1		
作業療法士	2	日商簿記2級	1		
主任介護支援専門員	2	日商簿記3級	2		

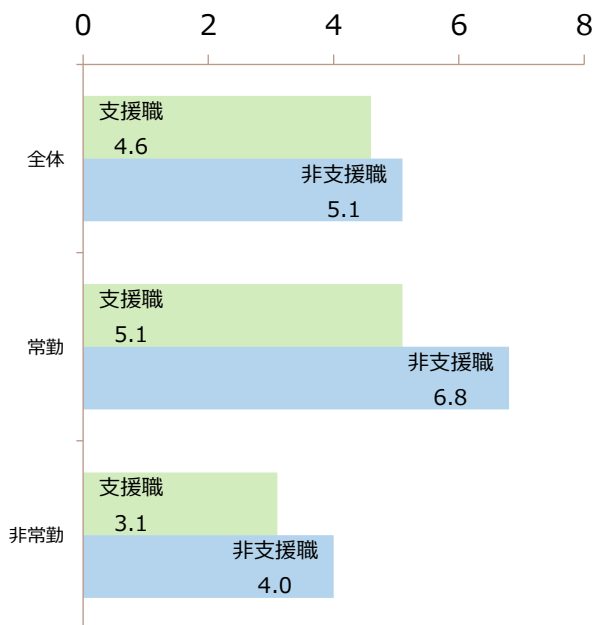
採用数・退職数の推移

	採用数								退職数								職員数 (年度末)
	小計	職種別内訳		雇用形態別内訳					小計	職種別内訳		勤続年数					
				常勤			非常勤										
		支援	非支援	正社員	契約社員	常勤パート	非常勤パート	嘱託社員		支援	非支援	3か月未満	1年未満	3年未満	5年未満	5年以上	
2007年度	87	57	30	46	2	15	20	4	32	22	10	22	10	0	0	0	55
2008年度	22	17	5	16	1	3	2	0	18	15	3	4	5	9	0	0	59
2009年度	34	21	13	15	3	3	10	3	21	16	5	7	7	7	0	0	72
2010年度	39	26	13	12	6	1	13	7	29	18	11	8	11	6	4	0	82
2011年度	93	59	34	48	9	6	24	6	38	22	16	12	13	7	6	0	137
2012年度	68	45	23	36	9	0	19	4	51	34	17	17	13	15	4	2	154
2013年度	60	41	19	30	5	1	16	8	56	44	12	9	12	27	6	2	158
2014年度	67	57	10	40	4	3	13	7	50	41	9	16	16	12	5	1	175
2015年度	40	26	14	16	5	3	12	4	35	28	7	6	10	10	9	0	180
2016年度	44	30	14	21	3	0	16	4	35	23	12	6	7	9	8	5	189
2017年度	37	23	14	11	0	2	19	5	41	29	12	10	5	16	3	7	185
2018年度	37	19	18	15	1	1	18	2	46	24	22	4	5	16	6	15	176

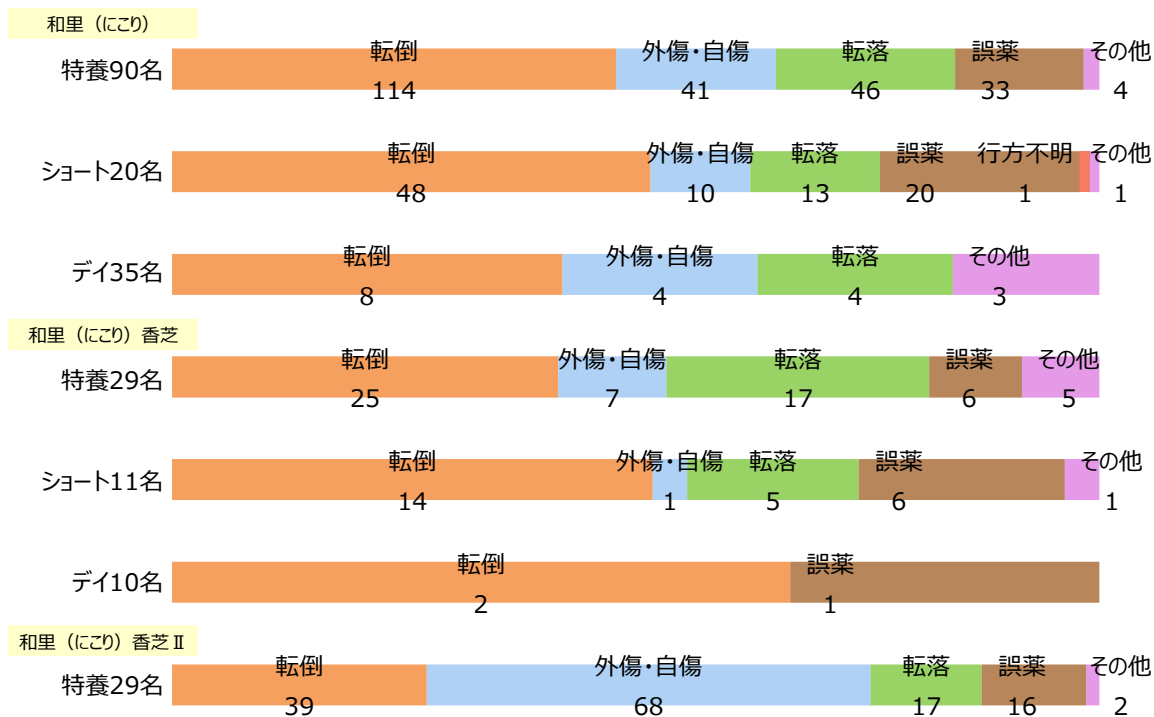
定着率（離職率）の推移

	定着率		離職率	
		試用期間除く		試用期間除く
2007年度	41.8%	81.8%	58.2%	18.2%
2008年度	69.5%	76.3%	30.5%	23.7%
2009年度	70.8%	80.6%	29.2%	19.4%
2010年度	64.6%	74.4%	35.4%	25.6%
2011年度	72.3%	81.0%	27.7%	19.0%
2012年度	66.9%	77.9%	33.1%	22.1%
2013年度	64.6%	70.3%	35.4%	29.7%
2014年度	71.4%	80.6%	28.6%	19.4%
2015年度	80.6%	83.9%	19.4%	16.1%
2016年度	81.5%	84.7%	18.5%	15.3%
2017年度	77.8%	83.2%	22.2%	16.8%
2018年度	73.9%	76.1%	26.1%	23.9%

平均勤続年数 2019年3月31日時点



事故報告件数 2018年4月1日～2019年3月31日

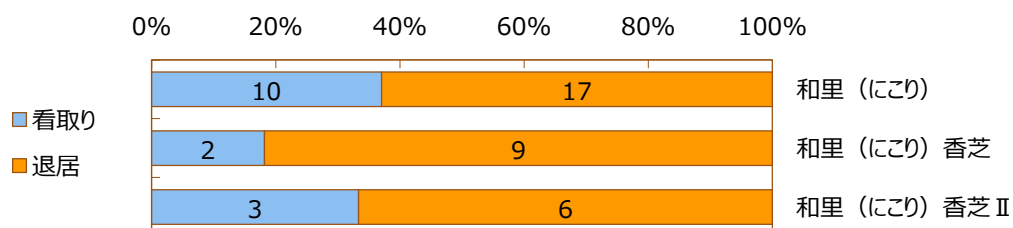


苦情解決件数 2018年4月1日～2019年3月31日

和里（にこり）									
区分	申出人	方法	苦情内容	説明不足	職員の態度	サービス内容	サービス量	管理体制	権利侵害
特養	家族	☎	支援職の言動		1			1	
特養	家族	☎	受診方法	1					
特養	家族	☎	介護方法	1		1			
特養	家族	☎	介護方法		1				1
特養	家族	☎	請求方法					1	
特養	家族	☎	看護・嘱託医	1	1				
特養	他機関	☎	他機関連携	1	1				
ショート	家族	☎	個人情報保護		1			1	1
ショート	家族	☎	食のあり方			1			
居宅	家族	☎	面談方法	1	1				
居宅	家族	☎	電話応対		1				
不明	匿名	☎	運転方法		1	1		1	

和里（にこり）香芝									
区分	申出人	申立	苦情内容	説明不足	職員の態度	サービス内容	サービス量	管理体制	権利侵害
特養	家族	☎	介護方法	1	1	1			

看取り支援をさせていただいた生活者数



Objectively looking at our corporation



3,351人

地域交流スペースの貸し出し（推計）

事業所の認知度向上が主目的ではありません。
地域住民のつづやき（生活課題）を知り、事業所の方向性を探ること。
そのために、15団体のサークルに計249回無料開放いたしました。

27ヶ所

「くるみん」認定企業（奈良県公表）

次世代育成支援対策推進法に基づき、職員の仕事と子育ての両立を図るための行動計画を実施しているため、厚生労働大臣の認定を受けています。



1ヶ所

ユニットリーダー研修実地研修施設

日本ユニットケア推進センターの認証事業所は、全国に68か所ありますが、奈良県においては、和里（にこり）のみです。
県内外のユニットリーダー51名がユニットケアを学びました。

915人

実習生の受け入れ人数

介護福祉士，社会福祉士，看護師，教職員，県職員，ユニットリーダー研修などの実習生を積極的に受け入れ、事業所の役割や専門性について対話をしています。



5件（5,455,000円）

採択された補助金事業

法人としての活動の幅が広がるだけでなく、チャレンジのための「ビジョン」と「計画的実行」、そして法人の信用につながります。



3ヶ所

認知症ケア学会の認定機関（関西）

学会の代議員による推薦，教育支援を継続的に行なっていることなど，一定の要件を満たした認定機関数は全国に33箇所です。



610人

外部研修受講者（延人数）

ドリームコース職員を中心として，個人と組織の資質向上を図るために，法人外研修に積極的に参加しています。

11団体

見学に来てくださった団体数

閉鎖的環境ではなく，他法人などとの積極的な交流を図っています。
国内外に技能移転が可能となるような品質保証を目指しています。

2ヶ所

DCM推進協力施設（関西）

認知症介護研究・研修大府センターの認定事業所は，全国に11か所です。認知症ケアの質の向上のため，PCCの実現に努めるとともに，事務局としての責務を全うします。



1ヶ所

認知症ケア専門士会（関西）

日本認知症ケア学会認定の専門士会は，全国に24か所です。認知症ケア専門士の自己研鑽と地域交流のため，事務局としての責務を全うします。

2018年度 決算報告

貸借対照表

流動資産	276,947,009
固定資産	1,957,348,487
資産合計	2,234,295,496
流動負債	182,445,842
固定負債	711,067,382
純資産の部	1,340,782,272
負債及び純資産合計	2,234,295,496

事業活動計算書

【サービス活動増減の部】

サービス活動収益計①	903,318,947
（介護保険事業収益）	902,550,947
（経常経費寄付金収益）	768,000
（その他収益）	0
サービス活動費用計②	847,934,501
（人件費）	593,501,181
（事務費・事業費）	212,408,544
（減価償却費）	54,906,802
（国庫補助金等特別積立金取崩し額）	△12,882,026
サービス活動増減差額③＝①－②	55,384,446

【サービス活動外増減の部】

サービス活動外収益計④	4,988,445
サービス活動外費用計⑤	11,020,196
サービス活動外増減差額⑥＝④－⑤	△6,031,751
経常増減差額⑦＝③＋⑥	49,352,695

【特別増減の部】

特別収益計⑧	0
特別費用計⑨	0
特別増減差額⑩＝⑧－⑨	0
当期活動増減差額⑪＝⑦＋⑩	49,352,695
前期繰越活動増減差額⑫	540,721,630
当期末繰越活動増減差額⑬＝⑪＋⑫	590,074,325
次期繰越活動増減差額⑭＝⑬	590,074,325

